

みみタロウ

日本語版 2024年 7月 ☆152号

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
住所：津市におの浜1-1-20 ビアザ淡海 2F

Tel : 077-523-5646

email : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : https://www.s-i-a.or.jp

Facebook : https://www.facebook.com/siabiwako



ゆめ 夢をあきらめないで！

今回みみタロウは、ブラジル人学校で日本語を教えている倉富アニーさんにお話を伺いました。



私はコロンビアで生まれ、幼少期は近江八幡市で過ごしました。4歳からブラジル人の経営する保育園に通園し、先生からポルトガル語を教えてもらいました。我が家では

スペイン語だけを話すというルールがあります。ですから小さい頃から家と外で異なる言語を使う事は、私にとってとても自然なことで、保育園では先生と母との間で通訳をしていたそうです。小学校では、今度は日本語を学ぶことになりました。私自身、中身は日本人だと思っ

ていますが、日本の文化や言葉などの土台は、全て小学校で身に着けたと思います。入学当初は日本語の発音からお箸の使い方まで厳しく指導されて泣いたりしましたが、今はその事をととても感謝しています。高学年になると周りの子たちから容姿の違いを言われるようになり、つらいこともあり

ました。そんな時でも心の支えだったのが、学童です。そこには優しい先生や様々な年齢の仲間がいて、温かい大きな家族のようでした。

小学校を卒業すると東近江市に転居し、知り合いのいない中学校に通学することになりました。そこで私は、思春期の難しい人間関係もあって、ひどいじめを受けることになります。「触るな、汚い、死ね」などの言葉を投げかけられ、自転車で落書きされたりして、まるで自分が消され、色のない世界に生きているような日々が続きました。そんな状況で勉強ができるはずもなかったものの、私には「大学に行きたい」という漠然とした夢があり、そのために高校に行きたい、という強い気持ちがありました。進学先の選択肢が限られる中、私が選んだのが通信制の高校です。最初は皆と違う学校で恥ずかしかったのですが、とても良い選択だったと思っています。学習する教科を選択でき、自分のペースで学

べる単位制の学校なので、自由度が高く、高校時代は当時の私にとって厳しい学校のシステムから解放され、自分自身を取り戻す大切な期間となりました。また同じ頃、ブラジルコミュニティで出会った生き方からも立ち直る力を与えてもらい、加えてブラジル人との付き合いを通して、保育園以来話していなかったポルトガル語が上手くなるという副産物もありました。

高校卒業後は大学に進学することにしていました。が、何を勉強するのか決めかねていて、とりあえず進学資金を貯めるためにアルバイトをしていました。そんな頃、ハローワークに知り合いの通訳で付き添ったところ、ポルトガル語通訳の仕事をお勧められ、市役所で働くことになりました。そこでは、色々抱えている外国人住民と出会うなど実社会に触れることで英語の必要性を痛感し、自分の進む道も見えてきました。2年間働いた後、英語の専門学校に進み、英語を勉強し始めると、世界が一気に広がったように感じて、さらに語学への興味が膨らみま

した。そして今、大学で言語学を勉強し、その傍ら2年前からブラジル人学校で日本語も教えています。ブラジル人学校では、日本語の授業数も限られているのですが、子ども達には、日本の社会で生きていくために日本語をしっかりと学んでほしいと思い、楽しい授業作りに取り組んでいます。外国人住民が増え、外国人も公正な制度の下、もっと活躍できる社会へと変化してほしいですし、私たち自身も「日本人だから」「外国人だから」と分け隔てる意識を変えて、お互い理解し合うよう成長していきたいですね。